



VOICE

読者のページ

2023年12月号(51巻12号)へ寄せられた
読者の皆様からのご意見・ご感想を紹介します。

特集

尿沈渣検査からの病態推測と 診療へのアプローチ

- ルーチン業務で尿沈渣検査を行っているのですが、とても役に立ちました。特に卵円形脂肪体（OFB）の鑑別は実務に活かしたいと感じました。 **I・A（高知県）**
- 尿沈渣は細胞の読み方に特化した記事が多いので、病態と結びつけて説明された本特集のような内容は勉強になります。 **きょん（東京都）**
- 尿沈渣の本は当院にもありますが、沈渣成分の形は多様で、断定できないこともありました。本特集の薬剤結晶はとてもわかりやすかったです。 **MO（大分県）**
- 尿蛋白陰性でもマルベリー小体が出る場合があるとは初耳でした。鏡検に慎重を期します。 **MT（滋賀県）**

FOCUS

どうなる？臨床検査技師の働き方

- 臨床検査技師が外に出る時代の到来ですね。どんどん外に出て、看護師並みに知名度のある職種になればと思います。 **コウベノサウナー（兵庫県）**
- タスク・シフト/シェアの必要性は理解しますが、当院の検査担当は慢性的なオーバーワーク状態です。倒れる人が出そうな危うい現場もあることもふまえた業務の整理、効率化の議論を望みます。 **HH（群馬県）**
- タスク・シフト/シェアによって、臨床検査技師として担う仕事が拡大していくことに不安もありますが、検査をすべて任せられることに責任と誇りをもって業務に取り組みたいと思います。 **I・A（高知県）**

MT ラウンジ

染色ノイローゼ

- 「染色ノイローゼ」は、病理に携わる方であれば一度は身に覚えのある内容だと思います。私もさまざまなものを見ては、つい特殊染色を連想してしまいます。自分だけではないのだと安心しました（笑）。 **雫（山形県）**
- 病理染色には苦手意識があり、好きではありませんでしたが、記事にあるキャラクターの配色との類似性には共感する部分が多く、にわかに興味が湧いてきました。 **MT（滋賀県）**
- 笑いました。面白かったです。次にEVG染色を見た時に思い出し笑いそうです。 **Y.K.（岡山県）**

基礎講座

赤血球形態異常のとらえ方

- 血球異常が発見された時の区別の仕方が表になっていて、わかりやすく読むことができました。視覚や記憶を駆使して特徴をとらえ、ルールに則って判定していく大切さをあらためて学びました。 **ST（兵庫県）**
- 奇形赤血球はよく見ますが、どの程度の割合で報告するか、検査技師同士でよく話題にしています。1,000個カウントによる算出方法ははじめて聞きました。患者さんのためにもきちんと理解して結果を報告したいので、職場で共有します。 **MO（大分県）**

ご意見・ご感想は巻末の「ホットラインカード」、またはwebアンケートにてお寄せ下さい。ご投稿をお待ちしています！

